記念號發刊の辭

學長　向坊長英

當女子短期大學の研究發表機關、『紀要』も遲々たる歩みながら玆に第三輯を發刊するに到つたことは同慶に堪へない。『紀要』が發刊される毎に全國の文科系の大學には之を贈呈してゐるが、各校の先生方から「實費を支拂つてよいから自分用に一册を」との御希望を受けて發刊の勞苦以上に我々は大いに慰められ勵まされてゐる。

『紀要』第三輯を特別に記念號としたのは、當女子短期大學に專任として國文科主任の重責を負つてゐられる川瀨一馬教授が「古辭書之研究」で文學博士の學位を今春

受領されたためである。この研究に對して文部省は出版補助費として數十萬の巨費を約束されたことは、この論文の價値を證明するものとして大慶の至りである。

先生は三十歳を僅か許り越えられた頃早くも「古活字版之研究」に依つて學士院より東宮御成婚記念賞を頂いてゐられる。著述も當に等身大に及ばんとしてゐる。我々は先生を當短期大學の專任として誇るのみならず、我が國のためにも誇つてゐる。而も先生は春秋に富み極めて健康である。先生が當女子短期大學の偉大なる教育者である許りでなく、先生の獨創的研究が今後益々我が國文化の向上伸展に寄與貢献せられんことを確信熱望するものである。

以上簡單ながら記念號刊行の辭に代へる次第である。